

ADHD（注意欠陥/多動症）やSLD（限局性学習症）、ASD（自閉スペクトラム症）などという症名も最近は身近になりました。これらは全て発達症の仲間です。

しかし、「名前は聞いたことがあるけど、詳しくは知らない。」「何となくしか分からない。」ということもまだあるのではないのでしょうか。そこで、これからそれぞれの特性やどんなことで子供たちが困っているのか、また支援の方法などについて、このお便りで紹介していきたいと思っています。

こんなお悩みはありませんか？

- 友達とのトラブルが絶えない。家でも叱っているのに。
- 散らかしっぱなしで、いくら注意しても変わらない。
- 漢字を覚えられない。ちゃんと練習しているのに。

もし、特性が根本にあるためできないで困っているのなら、ただ注意をしたり、努力をさせたりするだけでは、改善は難しいのです。

しかし、発達症についての正しい知識があれば、その子供に合った適切な対応をすることができます。また、専門機関に相談することで、よりよいアドバイスを求めることもできます。すると以下のように好循環に切り替わっていくのです。

対応が変わると子供が変わる

好循環

褒める機会が増える

発達症の特性と似た部分がある子供は、たくさんいます。かく言う私にも「ある事だけこだわりが強い」「片づけが苦手」など思い当たる点はいくつもあります。でも、社会に適應してうまくやれているのは、《自分の思考や行動の癖》として自覚し、自分の周りが困らない程度にうまくやり過ごしているからだと思います。これは、誰にでも当てはまることではないのでしょうか。

今後もこの「ひなた便り」で、特性の状態やとらえ方、ふさわしい対応など紹介する中で「うちの子もこの部分が似ているから、真似しよう。」などと参考にさせていただければと思います。

お知らせ

長崎県教育委員会では、一人ひとりの子供さんを理解するための手段として、平成28年度から「見守りシート」を全学校で実施、活用しています。

香焼小でも、今週（6月20日配付予定）この「見守りシート」を配付します。お子さんについて簡単な項目に答える形のプリントです。ご家庭で普段の子どもさんのことを考えながら、記入してご提出ください。（6月30日〆切となっています）

こちらの記入結果から教育相談に繋げたり、今後の指導に活かしたりしていきたいと思っています。